



地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

愛ランドまーい

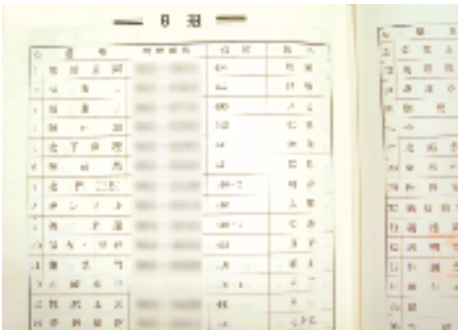
人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

生活に根付く屋号

うるま市石川山城（旧石川市字山城）の人口は、現在、約千人ですが、そのほとんどが山城姓を名乗っています。同姓同名も多いことから、家を区別するために、屋号が今も生活に根付いています。屋号は家の名ともされ、その家の所在地の方位や地勢、門中における系譜関係などにちなんで付けられています。石川山城では屋号を記載した区電話帳を作成し、区内に配布しています。

屋号とともに生活に根付いているのが、集落内に設けられた七つの掲示板です。区長は、地域行事やサトウキビの出荷のスケジュールなど、住民に必要な情報を伝える際に活用しています。

石川山城はサトウキビ栽培の盛んな地域で、年明け間もなく、出荷作業で大忙しの日々が始まります。サトウキビの出荷の順番は、くじ引きで決められます。区長は、屋号で表記したスケジュール表を作成し、集落内の掲示板に張り出します。



区電話帳は姓ではなく「亀仲加」などの屋号で引くようになって

「下庫理屋」

また、旧暦十一月十日には、その年の新生児の健康を祈願する行事、チリタンチョーが行われます。事前に「チリタンチョー」の対象者を教えてください」と掲示板に張り出せば、情報が区長のもとに寄せられます。

掲示板というシンプルな伝達方法で事足りるのは、地域のコミュニケーションがうまくいっているからこそ。住民の団結力の強さ、助け合いの精神に支えられ、昔ながらの地域行事も多く継承されています。



コミュニケーション・ツールは、屋号と掲示板

うるま市石川山城の組織活動

現在では、石川山城のようにウマチーを年4回も行う集落は少なくなりました。



サトウキビの出荷の順番はクジで決められ、屋号で表記されたスケジュール表が掲示板に張り出されます。



ウブガー。旧正の朝、住民が集まり、三つのカーを巡り拝みます。

新年をことほぐ

カーメー

石川山城は旧石川市に属し、近隣から入植した三兄弟を始祖とするため、山城姓が多い地域です。

農業ではサトウキビが盛んです。また特産品に山城茶があります。

石川山城には年四回行われるウマチー（稲・粟・麦に関わる祭り）やムーチャー（鬼餅）など、旧暦で行われる多くのカミゴト（祭祀）があります。年明け最初のカミゴトは、カーメー（井泉廻り）です。

旧正の朝、参加者が連れ立って集落内のウブガー、ワランザガー、イショウアレーガーの三つのカー（井泉）を回り、ウガン（拝み）をします。

二市二町が合併して誕生した「さんご礁に囲まれた美しいまち」うるま市

沖縄本島東海岸に位置し、市街地には緑があふれ、沖縄の歴史に深い関わりを持つ史跡や遺跡が数多く点在します。また、様々な伝統芸能や文化が継承されています。



闘牛のメッカ

沖縄一の規模を誇る安慶名闘牛場や石川イベント公園などで、春、秋の全島闘牛大会等を開催。1トン超の巨体がぶつかり合う迫力は多くの闘牛ファンをくぎづけにします。



勝連城跡

歴史上著名な阿麻和利の居城として琉球史に大きな影響を与えた城跡。平成12年には、世界遺産に登録されました。



エイサー

勝連平敷屋、与那城屋慶名、具志川赤野のエイサーは県下でも有名で、旧盆の時期には近隣市町村からの見学者で賑わいます。

産業

農業・畜産・サトウキビ、花きを中心に野菜、メロン、ミカン、スイカ、イ草等が栽培されています。また、金武湾と中城湾の両湾で沿岸漁業が行われ、勝連地域のもずくは県下で高いシェアを占めています。



うるま市の概要

平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併し、誕生。那覇市より北東へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接しています。東南に伸びる半島部の北方および東方海上には、有人・無人を含めて8つの島々があり、このうち5つの島は海中道路や橋によって結ばれています。



2月3日(土)・4(日)
おきなわ花と食のフェスティバル開催!



ていだサンサン
食べたらがんじゅう沖縄産!